



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

「平成25年の年頭に当たって」

千葉県環境生活部環境政策課長

楯引 宣子

平成25年の新春を迎え、環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

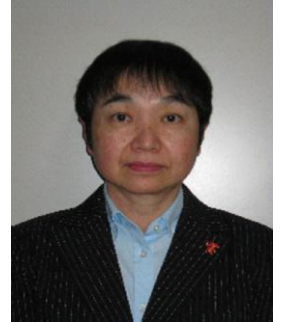
皆様には、日頃、地域の環境保全活動から環境学習、地球温暖化防止、資源循環型社会づくりなど、幅広い活動を実践する中、夏期節電キャンペーンへの参加や環境学習アドバイザーとしての活動など、本県の環境行政の推進に御協力・御尽力をいただいておりますことに深謝申し上げます。

また、持続可能な社会の実現のため、例年開催されているエコメッセにつきましては、ここ数年、実行委員長である桑波田代表の御尽力により、市民・企業・行政など様々な主体の協働のもと、本県の初秋を代表するイベントとして盛り上がりを見せているところです。

特に、昨年は、環境保全活動に関わる幅広い分野の方々の「交流の場」として、新たに「環境協働創造市」が設けられ、これにより、地域における市民・NPO・企業・大学・行政等の連携・協

働が、一層進展するものと期待しております。

さて、昨年10月、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が完全施行され、この中で、「体験の機会場の知事による認定制度が導入されました。県では、県民、民間団体等の皆様による環境学習や環境保全活動の一助となるよう、昨年末までに当該認定に係る基準や手引を作成し、受付体制の整備を行ったところです。貴団体の皆様にも、是非、本制度を御活用いただければ幸甚に存じます。



結びに、本県の環境行政へのますますの御理解と御協力をお願い申し上げますとともに、環境パートナーシップちばの更なる御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

『新年のご挨拶』

代表 桑波田 和子

例年にない大雪や寒さが続いておりますが、会員の皆さまにおかれましては、希望の新年を迎えられたことと思います。巳年は、「語源由来辞典」によると、植物に種子がではじめる時期と記されています。「漢書律曆志」では、「止む」の意味の「巳」とし、草木の成長が極限に達して、次の成長がつくられ始める時期と解釈されているそうです。ちなみに「蛇」としたのは十二支を庶民に浸透させるためだそうです。

当会の昨年の主な活動は、千葉県から受託した「環境学習指導者養成講座」の開講です。受講生がひたむきに体験し学ぶ姿勢を通して、講座に関わらせていただく責任と喜びを感じております。また、「エコメッセ2012 in ちばの開催」では、協働・連携することで、新たな活動が展開できることを期待して、「環境協働創造市」を展開しております。

当会は、環境活動を継続し、いつまでも続く未来ある社会の実現に向けたための様々な活動を支援するために、市民・企業・行政等との協働(パー

トナーシップ)の取り組みを推進することを目標に設立され、今年で17年目を迎えます。

2002年に開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)で、日本は持続可能な社会を実現するために、世界中で人づくりに取り組むことを提案したそうです。それを受け、2005年から「国連ESDの10年」が始まりました。現在2014年「ESDに関するユネスコ世界会議」に向けて、「地球市民会議」が毎年開催されています。

2011(平成23)年の3.11を受け爪痕が未だ残る今こそ、持続可能な社会の実現に向け、環境活動団体だけではなく多様な主体の活動が、「巻き込む」「巻き込まれる」(英語では、inclusive=包括した)動きがますます必要と思います。

巳年こそ、これまでの活動をさらに実りある種子をつくりたいと願いました。

皆さまのご協力をなお一層よろしくお願いいたします。

環境学習指導者養成講座におけるグループ学習の成果について

環境学習チーム 広田由紀江

環パで受託している千葉県環境学習指導者養成講座は、県民向けに3ステップの講座を展開しています。今回は、2ステップ目である「発展コース」において、私が関わったグループ「房総チーム」についてご紹介します。

発展コースでは、グループ学習で学びますので、なるべく近い地域の受講生同士でグループになっています。受講生は千葉市、成田市、浦安市、船橋市、佐倉市、県内さまざまな地域からの参加となるため、4つのグループに分け、それぞれのグループがそれぞれにアクティビティをそのほかのグループに教えあうピア・ティーチングを実施しました。私は、大学生3人を含む市原市や長南町の人たち6名で構成される「房総（暴走？）チーム」を担当させていただきました。初回は、2人しか出席がなかったのですが、アクティビティを体験する3回目には、大学生3人とコーノさん、そして私も含めた「家族」としてグループワークを進め、アクティビティを効果的に実施することができました。私はサポートながら「母」、その「兄」であるコーノさん、大学生3人、キョウマ君とアイカちゃんは「息子」と「息子の嫁」という複雑な家族設定です。更にキョウマ君の「友達」のサヤマ君など、既に家族構成から脱していますが回数を追うごとに、これまで欠席だった方も参加し、

ワイワイとプログラム作成へと続きます。モモオさんは、環境問題に大変詳しいので「ご意見番」、ユカさんは「近所のきれいなお姉さん」。わがままな「母」が場をかきまわすのを、ご近所同士で助け合うような空気がグループワークに濃密に反映されます。ゴルフ場と環境についてのロールプレイングプログラムが成果として挙がる頃には、相互交流はもちろんのこと、協力して行うことで、何か不安があっても互いにサポートし合える関係づくりができていました。深く関わったのは房総チームですが、「関係づくりの成果」は、どのグループも達成されていたと思います。今後、環境学習指導者として、一緒に力を合わせていきたいと思う仲間に出会えたことを幸せに思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



＜房総グループの「ヒロタ家」の人々＞

導入コース・発展コースを受講して

受講生 小林 大地

私は導入コースと発展コースを受講させていただきました。その感想及びこれからやりたいこと、思っていることを書かせていただきます。

・発展コースに参加して環境問題を何とかしたいという思いを皆様お持ちなのですが、考え方は個々違うようで、お話を聞き、とても楽しかったです。

・バスツアー（導入コース）の車中で観たDVD「ミツバチからのメッセージ」についてミツバチが減っていく現象は以前から農家の方からお話を聞いていました。見学バスツアーの中で拝見したビデオでは農薬が原因ではないか？と言うことでしたが、私がお話を聞いた農家の方は、無農薬で野菜を育てている方のミツバチも同じ現象でした。なので、農家の方々は、農薬は関係ないと判断していました。

現在ミツバチが減っていくのは、ウィルス感染が原因とも考えられているそうです（最新情報です）。ということは、私がお話をお伺いした農家の方々の考えが正しかったのかもしれませんが、実際に現場で接触している方々の話がとても重要ということかもしれません。なぜウィルス感染が原因

なのかは、これから調べられるでしょう。＜註＞

・最近、私たち人間は地球に生かされていることを忘れかけているのではないのかと思っています。

ミツバチは人間のために増えすぎて、（ウィルスに感染して）調節されたとも考えられます。もしこの考えが正しければ、今後人間も同じことになるのかもしれませんが。必要かどうかは地球が判断するとも考えられます。

・発展コースに参加して思ったことは、発表した人の考えに共感できるかどうか（正しいかどうかは個人が判断するということ）です。

・これからは、今まで働いてきた現場（産業廃棄物）の経験を生かし、環境問題をどのように改善していくか、どのように伝えていくかを考え、実行できればと考えています。

＜註＞ ミツバチの群れが巣箱に戻れなくなったり大量死したりする現象（CCD：蜂群崩壊性症候群が世界中で起こっています。その原因の一つに農薬（ネオニコチノイド）が挙げられていますが、そのほか、ダニ、ウィルス、ストレス、など複数の原因の可能性があり、それらの複合原因も考えられています。（文責 小倉久子）

環境学習指導技能向上講座開講中

講座コーディネーター 桑波田 和子

千葉県から環境パートナーシップちばが受託した、環境学習指導者技能向上講座の第1回が1月9日(水)に開講しました。この講座は、2月6日までの間4回開講します。受講生は募集人数20名のところ21名ですが、講座により単発的に受講希望者もあります。

講座がめざす指導者のレベルは、環境学習指導者として2年以上の実績を持つ者等を対象とし、ファシリテーター、インストラクター、インタープリターとしての資質のさらなる向上を目指しています。そのために、① 高度な知識と指導技能を身につけるための講座とする。② 人に正しく情報を伝える方法、人から考えを導き出す方法などを学習する。③ 持続可能な社会づくりや学校での学習内容についても学習する。④ 最新の環境に関する情報を専門家から学ぶ場を設ける。以上のことを踏まえ、講座を企画しました。

第1回は、「環境学習に関する法律、基礎知識」について、林浩二氏(千葉県立中央博物館)と「情報を読み解く力」を、吉野真佐代氏(日本財団CANPAN運営事務局)でした。

第2回は、浦安市郷土博物館で実施している環境学習を、市民団体が協力している実例として見学しました。展示方法、イベント企画等学ぶための仕掛け、学芸員の思いなどじっくりと体験しました。

第3回は、「ファシリテーション実践」について、青木将幸氏(青木将幸ファシリテーター事務所代表)です。青木講師はファシリテーターとして魅力ある方で、昨年度の受講生が今年は友人を誘い受講したいとの申し入れがあり、企画側としてうれしく思いました。

第4回の「持続可能な社会の構築のために環境学習が果たす役割」は、森良氏(NPO法人エコ・コミュニケーションセンター代表)です。ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を加えてワークショップ等を通して学びます。

これまでの講座で、受講生が生き生きと楽しく学んでいる姿や、受講したことを実行したり、地域活動に生かすための行動が見えてきます。残りの講座に期待しています。

環境学習指導技能向上講座を受講中

受講生 中村 明子

1月早々から「環境学習指導技能向上講座」が始まり、同じく環パ実施の指導者養成講座(導入コース、発展コース)で学んだ仲間と楽しく参加しています。今回の内容は環境に関する法律、インターネットの情報、博物館における環境学習、ファシリテーション実施、持続可能な社会の構築のための環境学習と重厚感ある5つのテーマについて、駆け足4日で学びます。

初日の環境に関する法律についての講座では消費者教育推進法の紹介がありました。「環境教育」と「消費者教育」?と期待して受講。消費者教育推進法は事業者と消費者の情報量や交渉力の格差などにより、消費者が受ける被害を防ぐため、消費者教育を進めようという法律。その中で「消費者市民社会」という言葉が使われ、個々の消費生活の多様性を相互に尊重しながら、自らの消費生活行動が現在及び将来の世代に渡り、また内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼすものと自覚し、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画するという、個々が受身の消費者ではいけないとする法律であることに驚きと感動。2011年の大震災及び原発事故という大打撃以降、環境問題は経済、教育、差別・搾取・貧困、そして情報・報道など様々な社会要因をひっくるめた問題

だということが顕著になったのに、縦割り思考から全く脱却できない風潮にむなしさを感じていた昨今、このような法律に、少し希望を見出しました。

二日目の浦安市郷土博物館は資料の展示、陳列だけでなく、ホンモノの人や物を通した「リアルな体験」を地元の子どもたちにさせ、「生きる力」ならぬ“生き残る力”(激動のこのご時勢、多分にサバイバル的な意味を込めて)を身に付けさせるという、切実で祈りにも似た親心がこの博物館運営の原動力になっている感がひしひしと伝わってきました。

前半の講座が終わったところですが、毎回新たに教わるが多く、充実しています。後半もとても楽しみにしています。



〈技能向上講座2日目 浦安市郷土博物館にて〉

環境協働創造市（団体間のマッチングを目指す事業）を展開中

エコメッセ実行委員・交流部会長 宮下 朝光

エコメッセちば実行委員会は、「環境協働創造市開催事業」を行っています。

「環境協働創造市」とは、簡単に言えば団体の“交流会”です。市民団体、企業、行政、大学の各団体が集まって、団体同士が協働して取組みを創り出していくために検討する場です。団体同士の出会いの場、お見合いの場、情報交換の場、マッチングを目指す場です。

1月8日現在、38団体が参加登録、具体的なマッチング提案件数は44、マッチング成立（実施）が1件、この他に数件マッチング成立に向けた具体的な動きが出ている状況です。

▽創造市を始めた経緯

エコメッセちばは“持続可能な社会の実現”を目指しています。これまで17年間にわたり「環境活動見本市（エコメッセ XXXX in ちば）」を開催してきましたが、お陰様でこの3年間は出展団体数が120以上、来場者数1万人以上と盛況に推移しています。しかし会場スペースの面からは収容能力のほぼ限界に近付き、見本市のこれ以上の規模拡大は難しい状況になってきました。

一方、エコメッセの活動の輪をさらに広げたい、普及・啓発を持続的に進めていきたい、環境保全や環境問題の解決に取り組む人や団体をもっと増やしたい、とも考えていました。そんな中“協働”というキーワードが注目され始めました。

そこで、協働したい団体や協働に興味がある団体を募集してネットワークを作り、団体同士でマッチングによる協働活動を創り出し、その協働事例一つひとつの普及・啓発効果を積み重ねることができれば、見本市の効果に匹敵する、あるいはそれ以上の効果を生み出すことができるのではないかと、となりました。見本市に出展する団体を中心に展開できる可能性があるという点で、エコメッセならではの取り組みと言えます。

▽創造市の特長

「環境協働創造市」の言葉に込められた意味と特長は下記のとおりです。

- 環境 → 身のまわりのことも大事な環境、すべての分野が対象
 協働 → 団体同士が協力・連携（マッチング）していく

創造 → 新たな取組み・活動を創り出していく
 市 → 人、モノなどが集まる市場をイメージ

1. 登録・参加は無料です（エコメッセ・ホームページから簡易の申し込み可）
2. 環境系の団体だけでなく、医療・福祉などさまざまな分野の団体の参加も歓迎します
3. メーリングリストを活用した「メールマッチング」を目指しています
4. 2カ月に1回「交流会」を開催し、団体間の交流を深めます
5. “できること”“やりたいこと”を「マッチング提案書」にして具体的に進めていきます
6. マッチングは1対1だけでなく、1対n、n対nなどあらゆる可能性があります
7. 千葉県（環境生活部県民交流・文化課の「企業とNPOによるパートナーシップ事業」）や四街道市（四街道市みんなで地域づくりセンター）など行政とも連携していきます
8. 市民団体、企業、行政、大学（高校）、自治会や町内会、サークル団体の参加も可能

▽マッチング第1号「市民活動展」を開催

創造市の活動を一般に広く知ってもらう目的で、1月7日～11日、きぼーる1階アトリウムで市民活動展「協力して」と「協力します」をつなぐ（パネル展示）を千葉県環境研究センター、エコメッセちば実行委員会の共同開催で行いました。実はこの市民活動展は環境研究センターが呼び掛けていたマッチング提案で、創造市としては成立第1号となりました。15団体が参加し展示パネル作成で協力するなど、まさに協働の実践例となりました。また、期間中の8日に交流会を併催し一般の方向けに展示解説等を行って活動をアピールしました。テレビ取材も2社からあり、多少は広報もできたと思っています。



〈市民活動展 1月8日 千葉市きぼーる〉

御成り街道 ゴミ拾い駅伝

若葉ゴネット 吉田 謙二

ゴミ拾い駅伝は、エコマインドの会に所属する東金商工会議所の梅室氏の思い付きから始まりました。

2013年に御成街道が造られて400年を迎えるのを機に、東金商工会議所が”家康400年祭り”として各種イベントを開催することが決まり、その一環として御成街道保存会のメンバー等が、船橋～東金までの40kmの区間でゴミ拾い駅伝開催を計画しました。御成街道の半分近くは千葉市を通ることから、千葉市内でゴミ拾い活動をしている私に梅室氏から協力依頼の話がきたのです。

私は御成街道が注目されて、ポイ捨てゴミが減るきっかけになれば喜ばしいことですし、花の植栽活動”花いっぱい御成街道”の活動にも共感できるところがあるので、協力することにしました。

とはいえ、ゴミ拾い駅伝のノウハウ等は持っていませんので、箱根駅伝のコースを手始めに、2006年から全国各地の街道やロンドン五輪施設間でゴミ拾い駅伝を企画・運営しているNPO法人もう一つのプロジェクト代表の市川氏に、環境協働創造市へ参加とともに協働による大会運営を提案しました。

これによって、私の所属するGONET・エコマインドの会・もう一つのプロジェクトの3つの団体が主体となり、実行委員会を立ち上げて本格的な準備が始まりました。

まずは街道沿いの6自治体と千葉県環境財団、千葉県産業廃棄物協会、千葉県環境保全協議会に協力を要請、同時に自治体担当者にゴミ処理方法などのアドバイスを受けながら、環境以外の街づくりや教育委員会などにも趣旨を説明して、協力体制を作りつつ広報への発信を行いました。

イベントで一番問題となるのは予算の確保と広報力ですから、広報課等を経由して情報を発信することにより、新聞や情報誌等にも多く取り上げられるようになりました。

そうなれば、コース沿いの自治会の協力や、会場に使用する施設の確保もしやすくなりますし、協賛団体・企業も得やすくなります。

NPOが主体となって事業を進行して、後援や広報といった協力を自治体がすることで、お互いの良いところが活かせる活動になるかと思えます。ただいま2月10日の開催に向けて着々と準備中です。

若葉ゴネット：
<http://gonet21.com/wakaba/blog/>



廃食用油回収リサイクル活動 環境創造市に登録しています！

NPO法人コミュニティひまわり 事務局長 有馬 富穂

協力して！

1. 廃食用油提供の情報を連絡してほしい。
2. バイオ再生重油を農業用ビニールハウスの暖房用に使ってほしい。

八千代市の廃食用油の一般家庭からの回収は昨年8月から各公民館や市役所などの拠点回収が始まり、軌道に乗りました。一方、商店、病院、集団回収などの事業系の廃食用油はNPO法人コミュニティひまわりとNPO法人手をつなぐ親の会が引受けています。

私達の取組みの特徴は廃食用油を㈱東亜オイル興業所で再生重油に混ぜ、バイオ再生重油にリサイクルすることです。既存設備が利用できるため、低コスト、歩留め100%、大量生産可能です。

バイオ再生重油を農業用ビニールハウスの暖房用に使えば、正に地産地消が実現できます。この取組みは全国的に注目されています。この取組みを更に認知してもらうために、千葉県環境財団が推進している「ちば植物油利用促進コンソーシアム」※の構成メンバーに入れてもらいました。県下の他の同志・仲間と力を合わせて本事業を推進しています。

エコメッセ環境協働創造市に登録し、協力者などを呼び掛けています。この度、市民活動展が開催され、PRさせていただきました。



※：ちば植物油燃料利用促進コンソーシアムの目的は、地域で活動するNPO等が回収した廃食油から精製した植物油燃料の利用を促進することにより、二酸化炭素の排出抑制及び地域の活性化を図る。詳細は、以下のアドレスを検索ください。

<http://www.ckz.jp/onndannka/Consortium/index.htm>

連絡先：NPOコミュニティひまわり 有馬富穂
TEL 047-405-0565 FAX 047-405-0560
e-mail: arimatomiho@arimagakuen.jp

関東 ESD 学びあいフォーラム2013報告

ESDの視点をプラス 身近な活動を持続可能な地域づくりにつなげよう

横山 清美

2013年1月26日(土)にガールスカウト会館において、ESDを広く知っていただくために、「関東ESD学びあいフォーラム2013」が環境省関東地方環境事務所主催で開催され参加しましたことご報告いたします。

だより84号でご報告させていただきました昨年の同フォーラムでは、様々な立場で活躍している地域のコーディネーターが集まり、「持続可能な社会をつくる」ためには、「地域におけるコーディネーターのネットワークが必要」ということが共有され「分野を超えて連携する」「学びと参加をつなげる」コーディネーションが大切とされました。

この課題を解決するため、今年度ESD-J(環パは団体会員として入会しました)では、①参加型の地域づくり ②市民のエンパワーメント ③コーディネーターのスキルアップとネットワーキング、の3つのテーマにチャレンジするため、4つのESDコーディネーター・プロジェクト(①ESDコーディネーター育成カリキュラムの開発 ②テキストブックの制作 ③情報交流誌「未来へつなぐ」の発行 ④WEBサイトの開発・活用)に参画しています。

2013フォーラムでは、はじめに森 良氏(ESD-J 理事)による講演「持続可能な地域をつくるESDの視点とは」がありました。『持続可能な地域をつくるためには、

①FEC(Food・Energy・Care)の地域自給圏、②自治・自律、③地域の誇りの3つのポイントがある。地域を良くしたいと思っている「子どもや市民のエンパワーメント」は、初めの一歩から動いてもらい、参画し、皆でやる協働・協治へと促す地域を担う人づくりのプロセスがESD(持続可能な開発のための教育)には重要であり、このプロセスの中に、ESDの視点が必要である。』と話されました。また、これまであまり地域に関わってこなかった人々に、出番と居場所をコーディネートしようと提案されました。エンパワーメントの視点として、「貧困で未来を描けない子どもをなんとかしたい」。参加・参画の視点として、「地域とつながりをつくりたい」。パートナーシップ・ガバナンスの視点として、「環境教育を生かして多文化共生を進めたい」、「地域の環境を大切にしたい農業を守りたい」の4つの事例を基に分科会が開催されました。

各分科会では、ゲスト(事例発表者)、ファシリテーター、参加者でESD化するための視点を探し出



すワークショップをしました。

この後、全体会場に集まりESDの視点を小グループで共有し、全体で共有しました。内容は、「★コーディネーターと当事者(地域に生きる生活者)は、いったりきたりして(巻き込む、巻き込まれる)その中で自分のあり方を変えていく。★コーディネーターは、その体験を再構成(組み立て直し)して言語化することで、共感・共有が得られる。」等は、自分にも刺激になった発表でした。また、持続可能な社会づくりのためには、「信念を強く持つ」ということと、「何かをやりたい心を大事にする」というコーディネーターの指針も確認できた一日でした。

最後に情報共有として関東でのESDコーディネーター研修企画案の紹介がありました。これは、環境パートナーシップちばやElcoの会でも共有していきたいと考えています。

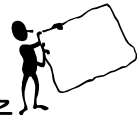


「ESD-J」は、2005年から始まった「ESDの10年」を追い風として、市民のイニシアティブで“持続可能な開発のための教育”を推進するネットワーク団体です。ESDに取り組む、NGO/NPO・教育関連機関・自治体・企業・メディアなどの組織や個人がつながり、国内外におけるESD推進のための政策提言、ネットワークづくり、情報発信を行っています <http://www.esd-j.org/>

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 14 —

おききました！ この人・この団体
コミュニティテラス いぬみ郷（通称：いぬみ郷）

主宰 笹渕 恭子



1. いぬみ郷の生い立ち

私は、音楽学を専門として、フランス政府給費留学生としてパリに渡り、2000年にわたる西洋音楽の構造的歴史の研究を行ってきました。帰国後、家族の介護、看病を経験し、地域のボランティア活動を始めました。現在、残りの人生の仕事は、住んでいる地域の活性化にあるという強い思いを抱いています。

「コミュニティテラス いぬみ郷」（いぬみとは北西部の和式名。千葉の旧幕張地区を中心とする地域名として付けた名前です）を2010年7月からオープン。まず行動し、現場と対話しながら進もうと、自宅を開放してスタート、小さな、小さな一歩を踏み出しました。

現在、料理の専門家をお招きして、栄養価を高く保つ調理法の学習、いぬみカレーの創作、また、夏休みには、子どもたちを対象に流しそうめん、秋には、恒例の月見会、新年の餅つき大会などを行っています。「いぬみ郷」では、人と一緒に楽しく食事ができること、栄養のバランスが取れた食事がとれること、そのためにも、栄養価を高く保つ調理法（低温蒸し）等に留意しています。また、2年前から、およそ250坪の畑を使い野菜の有機栽培、無農薬、無化学肥料栽培を試行的に始めています。

2. エコメッセちば 2012 への出展と環境協働創造市への参加

2012年9月17日に同時開催の「エコメッセ2012 in ちば」と「環境協働創造市」に参加しました。また、2012年11月10日（土）開催の（有）ナチュラルシードネットワーク（NSN）と環境パートナーシップちばの共催事業（県による企業・NPOとの協働事業）に参加しました。NSNの石井氏は、どんな方でも安心して食べられる野菜を求めて、栽培内容だけではなく、種からもこだわるといふ、究極の野菜作りを提案しています。この時の話し合いの中で、無農薬、無化学肥料による野菜作りの体験の場をいぬみ郷で持つという提案を行いました。

2013年1月8日に行われた環境協働創造市（マッチング交流会）では、環境パートナーシップちばのコーディネートによる「NSN」と「いぬみ郷」とのマッチングが進むとともに、いぬみの地（千葉市幕張町）に隣接する農地で無農薬栽培の野菜作りと、健康な食生活の推進活動を行う道が開けてきていると思います。

さらに、「環境協働創造市」に参加している、食と農に関連する団体とも交流・話し合いができたことが、いずれとても良い結果が生まれるものと期待しています。

3. 今後に向けて

現在、会員数は、正会員12名、賛助会員（地域の支援者）6名で、25年度をスタートします。ホームページは、現在設立中です。また、こんなことができます→ 無農薬栽培の野菜づくりの場を提供。食（そば打ち、餅つき、味噌作り、ハムづくり等）のワークショップ（出前可）、研修会の企画実施。こんなことができればいいな（夢）→地域のみんなが生き生きと元気に暮らす理想郷（フードパーク）をいぬみの地に創設する。協力してほしい →いぬみ郷の活動に共感して協力していただける方を広く求めています。市民へのメッセージ →みんなで知恵を出し合い未来を担う子供たちが元気に暮らせるコミュニティをつくりましょう。

余談ですが、いぬみという言葉はフランス語（INOUI）では、＜前代未聞＞という意味です。私たちは、いぬみ郷がこの言葉の通り、前代未聞な地域、オリジナルな地域となるよう願っています。今後食のみならず、他のさまざまな問題に順次取り組んでいくつもりです。



コミュニティテラス「いぬみ」イメージキャラクタ「ワッキー」と「アイアイ」



運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】をスタートしました。
ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

12月運営委員会

日時 12月17日(月) 18:30~20:55
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・エコサロン「ナガエツルノゲイトウについて」
- ・エコメッセ協働創造市交流会開催
- ・だより88号印刷・発送
- ・環境学習指導者養成講座(発展コース終了)

【協議】

- ・だより89号
- ・環パ通信
- ・技能向上講座
- ・市民活動展(エコメッセ協働創造市交流会)
- ・エコサロン
- ・ナガエツルノゲイトウその後
- ・レスポンシブル・ケア千葉地区地域対話集会
- ・24年度の活動ふりかえりと25年度の活動方針の検討(継続審議)

1月運営委員会

日時 1月22日(火) 18:00~20:45
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・市民活動展について
- ・技能向上講座について
- ・ナガエツルノゲイトウについて
- ・その他

【協議】

- ・だより89号
- ・環パ通信
- ・エコサロン
- ・ナガエツルノゲイトウのその後
- ・レスポンシブル・ケア千葉地区地域対話集会開催
- ・24年度の活動のふりかえりと25年度活動方針の検討(継続審議)

お知らせ

第2回『印旛沼・流域再生大賞』募集中

この制度は、印旛沼・流域を再生し、「恵みの沼をふたたび」取り戻すためがんばっている個人、団体を表彰するものです。詳細は、「いんばぬま情報広場」(<http://inba-numa.com/torikumi/saiseitaisyou/ouboannai/>)をご覧ください。

- ◆応募期間：平成25年1月21日(月)～平成25年4月15日(月)
- ◆応募資格：年齢、性別、国籍、団体・個人を問わずどなたでも。
- ◆応募方法：自薦・他薦は問いません。
- ◆応募・問合せ先：印旛沼流域水循環健全会議事務局(千葉県県土整備部河川環境課)

公開フォーラム&交流会

「アジア7カ国の若者と考える環境問題と未来」
参加者募集!

- 日時：2013年2月23日(土) 13:00-17:30
- 場所：桜美林大学四谷キャンパス地下1階ホール
- 定員：100名
- 概要：
 - ◎基調講演ゲスト：環境省総合環境政策局環境教育推進室長 宮澤俊輔氏
 - ◎第一部：アジア7カ国の若者によるプレゼンテーション
 - ◎第二部：アジアのNGO・社会的企業による若手人材育成の最新事例紹介
- 詳細：<http://join-yelp.com/japanese/openforum>
- お問合せ・お申込み：日本環境教育フォーラム(塚原・臼杵) asialeader@jeef.or.jp
- ※Facebook ページからもお申込みいただけます。
<http://www.facebook.com/events/329947387116437/>

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969
Eメール:info@kanpachiba.com
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		